

<鈴鹿市子ども・子育て支援事業計画の進行管理及び評価業務委託事業>

鈴鹿市の子ども・子育て支援に関する調査実績報告書



2016年3月

特定非営利活動法人 21世紀の子育てを考える会. 鈴鹿

<目 次>

I. 目的	1
II. 調査概要	
1. アンケート調査	2
2. 平成26年度行政評価に関する調査	2
3. 意見交換会	2
III. 調査結果	
1. アンケート調査の結果	3
2. 平成26年度行政評価に関する調査の結果	15
3. 意見交換会の結果	17
IV. まとめ	18
V. 施策の方向性	20
VI. 資料	21

I. 目的

- ① 「質の高い幼児期の学校教育・保育の総合的な提供」
- ② 「保育の量的拡大・確保、教育・保育の質的改善」
- ③ 「地域子ども・子育て支援の充実」の実現に向けて

鈴鹿市においては「鈴鹿市子ども・子育て支援事業計画」が平成27年度から5か年計画でスタートした。この事業計画は、子どもや子育て家庭などを対象に社会全体で子どもたちや子育て家庭をどのように育てていくのかという社会全体の方向性を定めたものであり、平成17年から平成27年までの次世代育成支援行動計画（前期・後期）の取り組み結果について評価し、検証した上で策定されたものである。

特定非営利活動法人 21世紀の子育てを考える会。鈴鹿は、この新たに策定された事業計画が市民のニーズに合致しているかなど、市民の立場から進捗状況を評価するための事業を受託し、平成27年度の事業計画について、調査報告書をまとめ、施策の方向性を示した。

今年度は、第1段階として、1歳6か月児健康診査を受診する子育て真っ最中の保護者を対象にニーズ調査を実施するとともに、平成26年度の事務事業評価の結果を調査した。また、これらの結果について関係者による意見交換会を実施し、今年度の鈴鹿市子ども・子育て支援事業計画について、改善等の必要性が認められればその方向性を示すことにより、本計画の進行管理及び鈴鹿市の子育て支援事業に寄与することを目的とした。

<鈴鹿市のビジョン>

「市民一人ひとりが夢や生きがいをもって安心して暮らせるまち すずか」



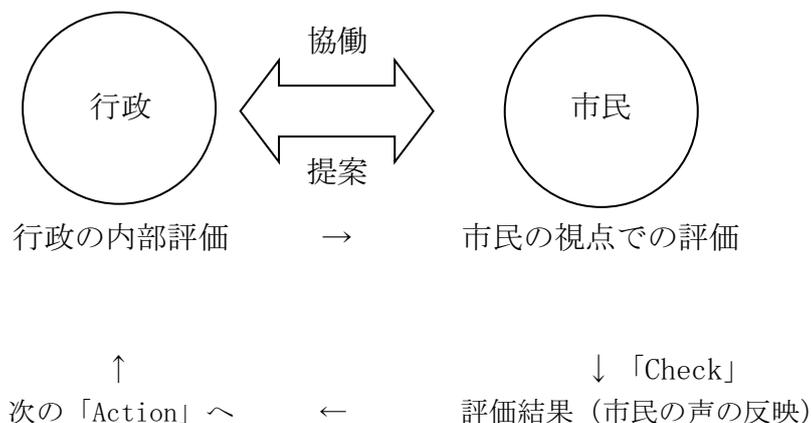
（第5次鈴鹿市総合計画より）※

「鈴鹿で育つ、鈴鹿の未来」

～未来を担う子どもたちの健やかな育ちをめざして～

※第5次鈴鹿市総合計画は平成28年度から新計画となる。

イメージ



*PDCA サイクルの確立

Ⅱ. 調査概要

1. アンケート調査

- 実施日 : 平成27年10月～12月
- 場所 : 鈴鹿市保健センター
- 対象者 : 1歳6か月児健康診査を受診する幼児の保護者
- 回答数 : 381名

2. 平成26年度行政評価に関する調査

○調査項目

- ① 一時預かり事業 (2-1)
- ② 通常保育事業 (2-2)
- ③ 延長保育事業 (2-2)
- ④ 低年齢児保育推進事業 (1-3)
- ⑤ 新生児母性訪問指導 (4-1)
- ⑥ 乳児一般健康診査 (4-1)
- ⑦ 1歳6か月児健康診査 (4-1)
- ⑧ 3歳児健康診査 (4-1)

3. 意見交換会

- 日時 : 平成28年3月12日(土) 10時～12時
- 場所 : 鈴鹿市男女共同参画センター (愛称: ジェフリーすずか)
- 参加者 : 9人 (NPO関係者6人・市議会議員3人)

【事業スケジュール】

- ・平成27年10月～12月・・・アンケート調査実施
- ・平成28年1月・・・・・・アンケート調査集計
- ・平成28年1月～2月・・・・行政評価に関する調査
- ・平成28年2月・・・・・・関係部署への聴き取り
- 〃・・・・・・子ども・子育て会議へアンケート調査結果提出
- ・平成28年3月・・・・・・意見交換会開催
- 〃・・・・・・調査結果報告書提出

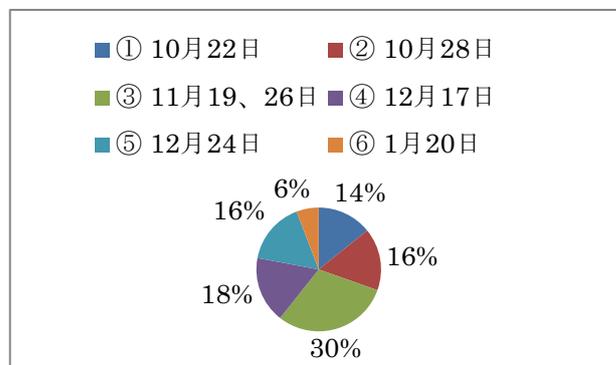
Ⅲ. 調査結果

1. アンケート調査の結果

平成27年10月から12月に1歳6か月児健康診査を受診する幼児を持つ保護者を対象に、子育てに関するアンケート調査を行った。

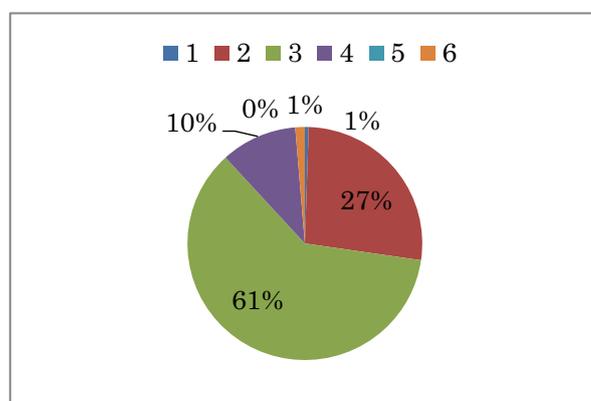
・健康診査日ごとの受診者人数（11月は2日間の合計で集計）

No.	健康診査日	受診者数
①	10月22日	54
②	10月28日	62
③	11月19、26日	115
④	12月17日	66
⑤	12月24日	62
⑥	1月20日	22
合計		381



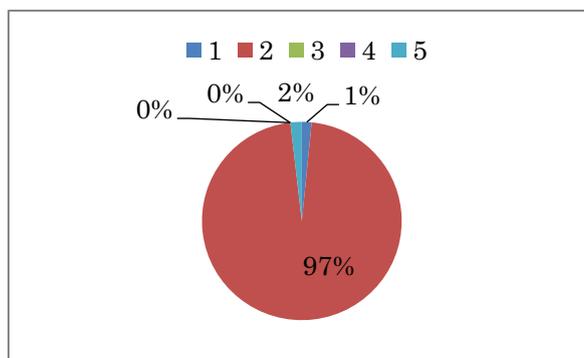
・保護者の年代

No.	年代	人数
①	10代	2
②	20代	102
③	30代	232
④	40代	40
⑤	50代以上	0
⑥	回答なし	5
合計		381



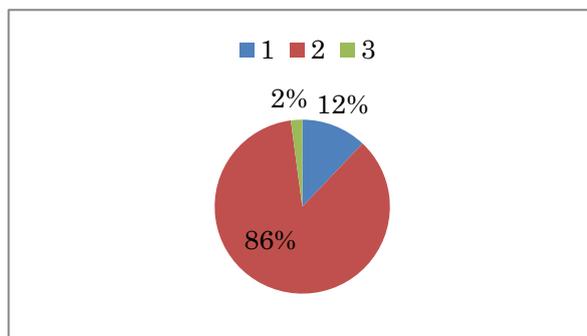
・保護者の続柄

No.	続柄	人数
①	父親	6
②	母親	368
③	祖父	0
④	祖母	0
⑤	回答なし	7
合計		381



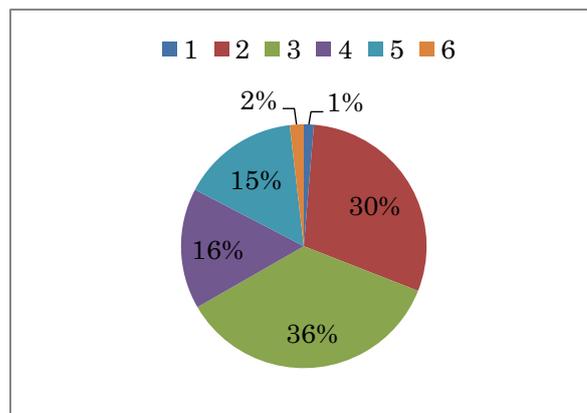
問1 あなたは、「鈴鹿市子ども・子育て支援事業計画」を知っていますか？

No.	回答内容	人数
①	はい（知っている）	46
②	いいえ（知らない）	327
③	回答なし	8
合計		381



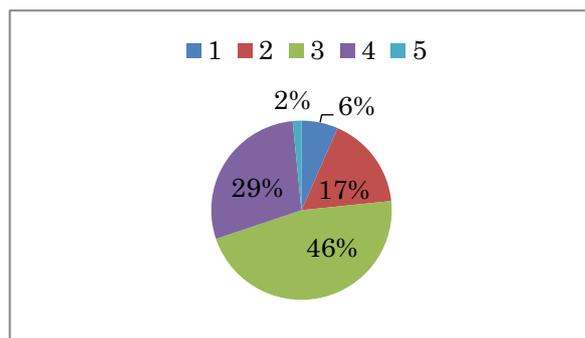
問2 あなたは、鈴鹿市のホームページを利用していますか？

No.	回答内容	人数
①	いつも利用している	5
②	時々利用している	113
③	あまり利用していない	136
④	利用していない	61
⑤	利用したことがない	59
⑥	回答なし	7
合計		381



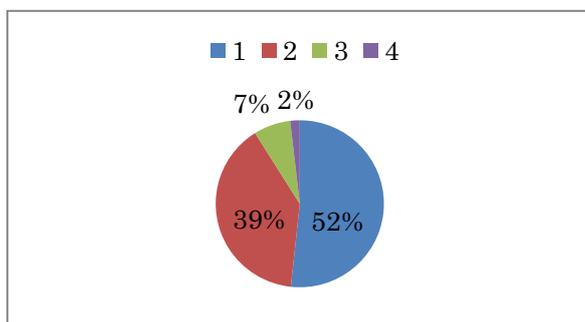
問3 あなたは、ワークライフバランス（仕事と生活の調和）という言葉を知っていますか？

No.	回答内容	人数
①	よく知っている	25
②	大体知っている	64
③	あまり知らない	177
④	全く知らない	109
⑤	回答なし	6
合計		381



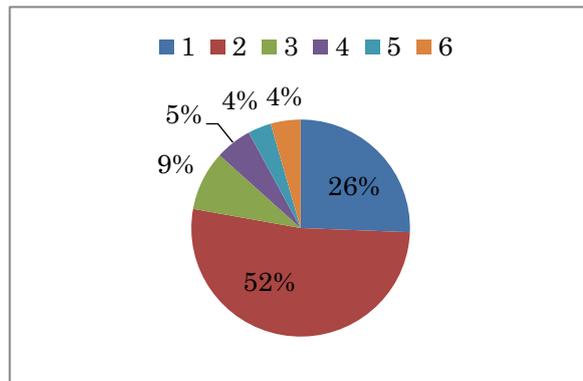
問4 あなたは、現在仕事をしていますか？

No.	回答内容	人数
①	していない	197
②	している	150
③	育児休暇中	27
④	回答なし	7
合計		381



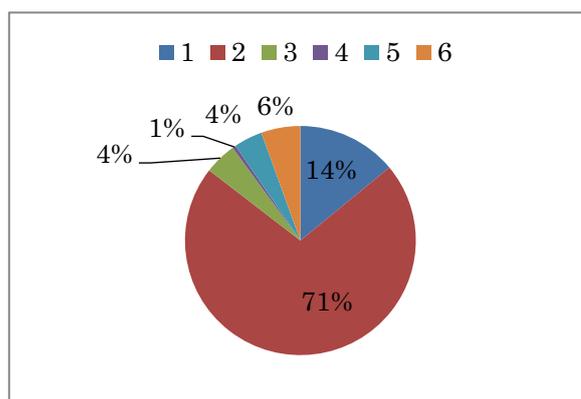
問5 (問4で仕事をしていない人に対し) あなたが仕事をしていない理由は何ですか？

No.	回答内容	人数
①	結婚を機に辞めた	52
②	出産を機に辞めた	106
③	転勤を機に辞めた	18
④	もともと仕事をしていない	11
⑤	その他	7
⑥	回答なし	9
合計		203



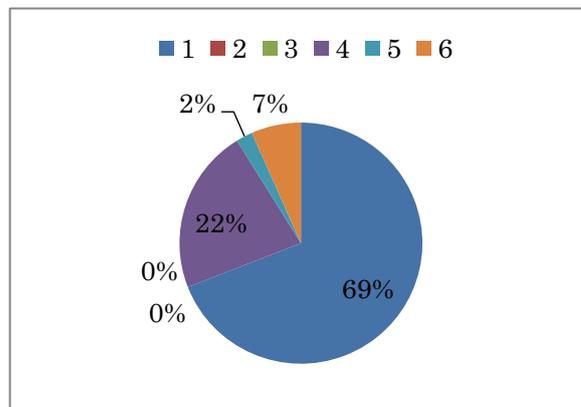
問6 (問4で仕事をしていない人に対して) あなたは仕事をしたいですか？

No.	回答内容	人数
①	今すぐしたい	28
②	子育てが一段落したらしたい	143
③	出来ればしたくない	9
④	したくない	1
⑤	分からない	8
⑥	回答なし	11
合計		200



問7 (問4でしている人に対して) お子さまの保育はどうしていますか？

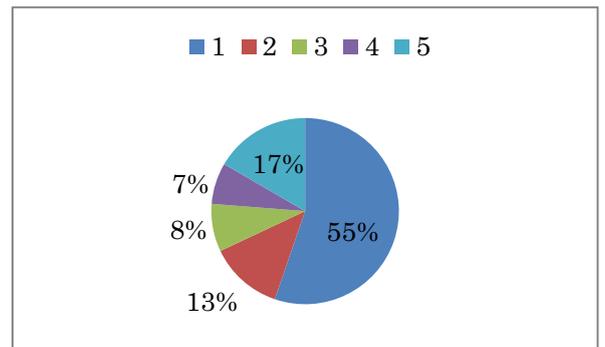
No.	回答内容	人数
①	保育所(園)	125
②	幼稚園	0
③	認定こども園	0
④	自分・家族	40
⑤	その他	4
⑥	回答なし	12
合計		181



8 (問4でしている及び育児休暇中の人に対して)

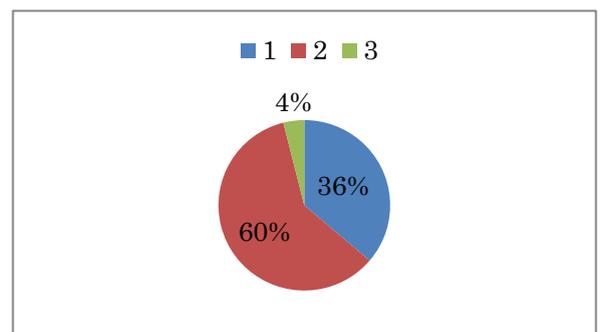
あなたの職場では、育児をしながら働くのに制度・環境は整っていますか？

No.	回答内容	人数
①	整っていると思う	100
②	あまり思わない	23
③	思わない	15
④	分からない	13
⑤	回答なし	30
合計		181



問9 あなたは、認定こども園を知っていますか？

No.	回答内容	人数
①	はい (知っている)	138
②	いいえ (知らない)	228
③	回答なし	15
合計		381



問10 あなたは、ご自身のあるいはご家庭のワークライフバランスについて、どのようにお考えですか？

(職場環境)

- ・職場の勤務体系が希望通りにならない。
- ・子供を中心に仕事のバランスを考えたいのが本音ですが、やっぱりそのようにはいかず、子供との時間が少なくなってしまいます。就学前の子供がいる人は、半日有休が取れるよう全ての会社がなれば良いと思う。
- ・夫婦ともに同じ会社に勤めており、休日はほぼ同じで家族で過ごす時間も確保出来ているので、可能であればこのままの状態を維持できればと思っています。
- ・パート時間など企業が子供が帰ってくる時間を調整して働きやすくしてくれたらもっと仕事に出れると思う。
- ・幸いなことに、夫婦とも育児しやすい職場に勤めているため、ストレスをかかえることなく仕事も育児もできます。
- ・仕事をしたら、仕事優先になってしまうのが、目に見えていて怖いです。(12月復帰予定) 職場の人間関係は素晴らしいですが、仕事量が半端ない。このような社会を何とかしてほしいです。子供の成長はあっという間です。なので、仕事に追われる日々にならないように気をつけていきたいと思います。
- ・自分の仕事が土日祝は休めないの、休みが取れる職場環境があれば、もっと子供と接してあげられるのと思う。子供の病気などにも急に対応できないし、職場にも気を遣う。なので、仕事と家庭の両立は難しいと思う。
- ・職場の理解(休み、時間も含む)、保育園、学童等の量や整備がもう少し良くなるといい。
- ・子供の急病などの際は、職場の理解が得られるとありがたい。
- ・職場に託児所があるが、早番や遅番に対応しておらず、正社員からパート。保育所は土曜日や保護者が休日の平日利用に不満。
- ・パートだから仕方ないかもしれないが、職場での有休、病気休暇を定めているが、なかなか取得できない現状である。

- ・正社員として働きながら、子供と関わる時間をシッカリと設けたい。
- ・会社も休みが取りやすく、保育園も協力的で大変助かっています。会社、保育園、家庭の協力がなくては仕事を続けていくことは出来ない。
- ・まだまだ女性が子育てをしながら働くのに環境を整えてくれない、、、と感じることが多くある。特に子供が病気の時、休みにくかったり、時短などがなかったり、、、。

(家族の協力)

- ・仕事は正規なので、帰りが遅い、朝が早い事もあり、実家の援助があって仕事出来ているので、両親には感謝している。
- ・自分も夫も、家庭を大切に働いて協力できるといい。 現実には、夫は仕事が忙しく妻に育児をほぼ任せきりで、妻は働ける状況にない。
- ・周りの協力なしでは出来ない。 主人の協力は特に！！
- ・子育ては結局母に負担がかかる。 今の日本では男性に育児を求めるのは難しい。
- ・主人が土日祝も仕事でほとんどいないので、子供と二人の時間が多く、仕事に復帰した後、家庭と両立していけるか不安です。
- ・夫婦の協力が一番大切で、これがないと仕事（生活）を続けられない。
- ・夫や祖父母（子どもからみた）の協力なしには、育児と仕事の両立は不可能だと思う。協力があるので、現在、安心して子どもを保育園に預けて仕事ができる。
- ・バランスというだけあって、両立のバランスが大切。家族の協力なしでは無理だと思う。
- ・現在はパートで週3日働いています。 保育所もあり、子供との時間も取れ、自分がやりたい仕事とは違うけれど、今は子育てと両立するためにはいいかなと思っている。主人も理解があるので、家事も育児もお互いの仕事や息抜きの時間を相談しながら分担してやってくれているので、助かっています。
- ・現在、育児休暇中のため いいですが、仕事復帰した際は時短などらず、フルタイム予定です。育児も大切ですが、仕事をする自分の存在も認めていきたい、、、となると、延長保育などを利用して働くと思います。 時には夫に早く帰宅してもらって子供を見てほしいですが、現実問題難しそうなので、母が一人で奮闘することになりそうです。 両立はなかなか大変かと思っています。

(育児中心の生活)

- ・子供の時間を第一に考えつつ、仕事のスキルを維持できる程度には働いて母親業以外の時間も持ちたい。夫には仕事に専念してもらいたいが、一緒にいられるときは積極的に育児に参加してもらいたいが。
- ・子供が小さいうちは、子育てをできるだけしたい。
- ・1歳半になり、少しずつ手がかからなくなってきたけど働きたいが、幼稚園に入るまでは家で育てたいという気持ちが葛藤している。主人は仕事の帰りが遅く、平日はほとんど私一人で育児をしている。 週末はダラダラ寝ているか、自分の趣味に時間を使い、妻子のために時間を取ってくれず不満。
- ・仕事を夫婦そろって持つと、子供が犠牲者になる。 子供に頭があがらないのは嫌なので、脳が出来上がる8歳までは自分で子育てしようと思う。息抜きの仕事は罪深く出来ない。 自尊心が傷つけられるので、正社員以外はしようとは思わない。
- ・子供が小さいうちは、パートで働きながら育児をし、少し大きくなったら正規で働くことを希望しています。
- ・家族、子育て中心に仕事をしていきたいと思っている。
- ・まずは家庭のことをきちんとしての上で、仕事をしたいと考えています。

- ・仕事もしたい気持ちは少しはあるけれど、子育てがおろそかになりたくない。しっかり子供の教育をまかせられるところであれば、預けてストレスをあまり抱えない。仕事をしないと、子供に当たってしまったり悪影響な面を抱えてまでは仕事を考えていない。
- ・専業主婦でいたいので、できるだけ子供たちと一緒にいる時間と生活を大切にしたいです。
- ・短縮時間でも仕事をするので、育児との両立をはかりたい。
- ・育児休暇が数年（3年程度）とれるのであれば、母親の立場としても仕事復帰したい。子供が1、2歳の間は父が仕事、母が子育て　これが我が家の調和だと思う。
- ・今は短時間労働なので、わりと子供と一緒に時間が持てるが、収入が少ないので子供が大きくなって手がかからなくなったら、転職してフルタイムで働いて収入を増やしたい。
- ・個人的には子供が3歳ぐらいまでは、家でじっくり関わり、育児に専念したいと思う。しかし姉（5歳）の幼稚園の月謝など考えると、少しは母親も収入を得たほうがいいのかな？
- ・今は年齢により育児と上の子の子育てでいっぱいなので、下の子が幼稚園に行くようになれば働きに出ようと思っています。

(その他)

- ・生活のための仕事という考え。
- ・心身ともに健康で、やりがいや生きがいをもって育児も仕事もできるという事。
- ・一人子育てだから　まだやっていけるけど、二人子育てになったら仕事に家事に子育てに両立できるか不安。
- ・仕事を探そうかと思うが、幼稚園に行っている兄姉がいるため、時間を考えると尻込みしてしまう。　そのうちに、、、と考えつつ未定である。
- ・夫の仕事は最近はずいぶん早く（？）（7時ごろ）帰ってくる人が多いので、家族が揃う時間が夜に少しあるので、今のところ満足。　欲を言えば、毎日定時がいい。
- ・仕事と育児のバランスを上手にとるのは難しい。
- ・子育てや家のことを優先にしながら、お仕事（パート）をしたい。
- ・子供が寝る前に父親が帰ってきてほしい。
- ・パートで働いても、保育園代をまかなうぐらいしか働けない。子育てしていると、仕事も急に休まなくていけないことが多い、、、など実際に働いている人からよく聞くので、しばらく働くのは難しいのかな、、、と思っています。
- ・ワークライフバランスはどちらかを犠牲にするものではなく、どちらも充実し、その充実さがあるからこそ、仕事も育児も上手く相互性により高まるものと考えます。
- ・子供がいない状態での働き方しか知らないの、育児休暇が終わってから仕事復帰することへの不安がかなりあります。”ワークライフバランス”という言葉も制度もあるということは知っていますが、それらが果たして実用的かどうかはわかりません。
- ・主人とのワークライフバランスについて、やはり女性が仕事と育児の両立が難しい。
- ・働きたいが、主人が転勤族なので、なかなか正社員で働けないと子供を預けてまで働く気になれない。
- ・以前は「早く外に働きに出たいが、今は無理」という状況にイライラや焦りもあったが、現在は家事や家計をしっかりと向き合う時期と割り切れている。ライフイベント表を作りタイミング（働き方など）を考え中。
- ・仕事をして、家族のためにお金が少しでも増えたら、、、と思いますが、今よりも育児や家事でバタバタして、家族にも協力してほしいとこちらが思っても、家族も自分もむしろ負担やイライラがつのったりしたら意味がないと思うので、行政などのサポートだけの問題ではないなあと思います。
- ・家計的に苦しい面があるので、よいと思う。
- ・よく出来ていると思う。

- ・結局のところ、母（女性）が仕事量を調整して、家事・育児をしなければならない。そのための支援は、最近職場でも制度などがあるが、正社員で働くことは結局のところ、母（女性）が仕事量を調整して、家事・育児をしなければならない。そのための支援は、最近職場でも制度などがあるが、正社員で働くことはとても厳しい。
- ・仕事をするにあたり、通勤環境の悪さに悩まされています。 電車通勤ですが、本数は少ないし、駅環境もひどい。もう少し何とかしてくれれば、もっとバランスのとれた生活になると思う。
- ・とても大事なことだと思う。 どちらかが崩れたら、それがストレスとなって結果的に虐待につながるかもしれない。
- ・もう少し子育てに優しい環境になればいいと思う。（子供が入院しても休めない状況）
- ・私生活の充実により、仕事が進み、仕事が進むことによって私生活も潤うという相乗効果を高められていると思いますが、仕事でのストレスも私生活や家族に影響していると思います。
- ・少し無理をしている気もしますが、バランスは良いほうだと思います。
- ・母子家庭で、子供2人を育てるために仕事を主に優先している（せざるを得ない）ので、十分ワークライフバランスの比率が良い状況とは思えない。
- ・仕事と私生活だけでなく、子供が小さいので、育児も加わっているため、調和しているとは思えない。 仕事のスキルを高めるための勉強も時間を作ろうと思うと睡眠時間を削っている。今は”ワークライフバランス”というのにはあてはまらない。
- ・転勤族なので、正社員で働くことは無理。
- ・バランスが取れているほうだと思う。
- ・ワークライフバランスのことをあまり知らない。
- ・家の中で子供とずっと向き合っていると大変なので、無理のない範囲で仕事で気分や気持ちの切り替えが大事だと思います。
- ・正社員を続けるには時間外勤務や休日にも出社しなければいけない場合がある。 夜勤もあるため、夫と保育園以外に病児保育が使えないと無理かもしれないと思う。しかし、本当は育児に専念して子供と昼間遊びたい もしくは6歳ごろまで時短勤務したい。
- ・仕事と生活の調和、、、といっても、バランスをとることは難しいと思う。日々の生活で精いっぱいバランスなんて考えている余裕がないな、、、と思います。
- ・仕事もしっかり、家庭（生活）もしっかりやるのは難しい。
- ・職場での勤務時間を時短にして、子供の起床時間や就寝時間が崩れぬように考えながらうまく時間を配分していません。
- ・頑張りすぎず、家庭の協力を求めて両立を優先する。
- ・健診も平日だけでなく、土曜日にしてほしい。ただでさえ、子どもの病気で休みがちなので、健診時の休みは負担になる。
- ・仕事は仕事で集中し、家族にいる時は家族との時間を大事にすべきであると思うが、（独身時に）仕事をしていた時には休日にも仕事のことを考えてしまうことが多かったため復職した際、仕事と家庭の両立が上手くできるか心配。

問11 現状の子育て支援制度、あったらいいなと思う事業（サービス）、または子育てに関する悩みなど

（休日・夜間）

- ・土、日も利用できる支援制度はありますか？
- ・夜中も対応してくれる病院。急に高熱が出た時、不安でいっぱいだった。
- ・平日働いていると、どうしても疲れ果ててしまう。土曜日と同じ保育園で預かってくれたら助かる。（月1回だけでも）祖父母が県外で頼る先のない核家族は疲れてしまう。（子供をたくさん産もうとは思えない。）
- ・土、日、祝日に一時的にでもいいので、子供を預かってもらえるサービスがあると助かります。突発的な用事などがあった際に利用したいです。
- ・土日祝も預かってもらえる保育園を増やしてほしい。病児保育の施設も増やしてほしい。
- ・日祝日も預かってくれる保育園がもっと増えるといいと思います。

（病児保育）

- ・病児保育を増やして頂きたいです。今の住まいから又は職場から病児保育が離れているので、利用しにくい。
- ・病児保育の面をもう少し考えてもらいたい。医療助成の期間を延ばしてほしい。
- ・もっと安く気軽に一時保育を利用したい。病気の時も預かってくれる保育所があったらいいと思う。急な時でも預かってくれる保育施設があってほしい。父の看病を母だけにまかせてふがいなかった。少しも役に立てず悔いが残った。子供がいなければよかった、、、とまで思った。
- ・土日保育や病児保育がもっと充実しているとよいと思う。
- ・急な病気の時に預かってくれるところが増えてくれたら、、、。
- ・子供が風邪をひいても預けられるところ。
- ・夜間や休日保育、病児保育がたくさんあればいいなと思います。一時保育も断られるようでは意味がありません。困ります！！
- ・子供の熱や風邪のときに預かってもらえる場所が安く利用できると嬉しい。
- ・病児保育の充実、子供がいる家庭でも働きやすい職場の理解。
- ・病児保育、病児のベビーシッターなど、病気の時預けられるところをもっと増やしてほしい。
- ・長女に先天性心疾患があります。来年度の保育所入園を目指して活動する中で、看護師が常勤の園しか申し込むことが出来ず、それにもかからわず、看護師のいる園はわずかでした。また市立の幼稚園については、前例がないと断られてしまいました。病児であっても条件が揃っていれば、幼稚園保育所で集団生活を送ることは出来るはずですが。どうか、もっと、病児を受け入れてくださる園やそのためのサービスの向上を希望します。長女に先天性心疾患があります。来年度の保育所入園を目指して活動する中で、看護師が常勤の園しか申し込むことが出来ず、それにもかからわず、看護師のいる園はわずかでした。また市立の幼稚園については、前例がないと断られてしまいました。病児であっても条件が揃っていれば、幼稚園保育所で集団生活を送ることは出来るはずですが。どうか、もっと、病児を受け入れてくださる園やそのためのサービスの向上を希望します。
- ・病児保育の施設を増やしてほしい。
- ・病児保育の充実
- ・病児保育をやっているところが少ない（鈴鹿だと白子に1か所だけ？） → 働きながら子育てをしていると、絶対に子供は病気になりがちなので、そんな時に病児保育がもう少しあれば、、、と思った。仕事もそんなに休んでばかりいられないし、子供が熱を出せば心配だし、でも働いてお金を稼がないと生活だって苦しくなる。核家族が多い中、病気の子供を見てくれる人だっていない。（同居だったら祖父母に頼れるかもしれないけど、そうではない環境の人が多くは。そうやって生活と子育ての間で苦しみ悩む親が頼れる機関や施設をもっと増やしてほしいです。）

- ・病児保育室の数、などを増やしてほしい。H27. 4月～制度化された事項が必ずしも守られていないように思うので、市単位で守られるようにしてほしい。

(支援センター)

- ・子育て支援センター「りんりん」の様な場所をもっと増やしてほしい。
- ・歩いて行けるとところに支援センターのような施設がほしいと思う。子供たちを車に乗せて支援センターまで出掛けるのは大変なので、利用したくてもなかなかできないこともある。
- ・日曜、祝日に利用できる支援センターがほしい。
- ・土日祝もやっている支援センターがあってほしい。病児保育の充実。
- ・支援センターを増やしてほしい、もしくは市街地（交通の便が良いところ）へ寄せてほしい。

(交流場所)

- ・転勤で3年前に引越してきた。1年くらいは働いていたが、出産を機に退職したため友人がほとんどいないので、子供と二人で家にいることが多い。時々「りんりん」などに行くが、友人が出来ずつまらない。子育てサークルを探しているところ。
- ・上の子は2歳から、下の子は0歳から保育園に預けましたが、おもちゃの遊び方、絵本への興味、食事の仕方（自分でやりたがる）などが、下の子のほうが早く積極的です。幼稚園入園前の（0）、1、2歳児でも集団生活が出来る施設がほしいです。
- ・他県での取り組みを見て、三重県（もしくは市）でもしてほしい。幼稚園入園前の（0）、1、2歳児でも集団生活が出来る施設がほしいです。（資格を取ったり、子連れでも仕事を探せる場所など）子連れでハローワーク等行けない。相談する場所がほしいです。
- ・土日に子供が遊べる施設が増えるといいな、、、と思います。もう少し職員が積極的に手遊びや歌遊びなど親子ともに関わってほしい。
- ・雨の日も体を思いっきり動かせるような屋根付き室内公園。同じ年の子供たちと交流出来るイベントなど。
- ・もっと室内で遊べる所を増やしてほしい。愛知や岐阜に比べて子供を遊ばせる場所が少ない。

(保健)

- ・すくすく広場での身体測定の後、育児相談等がなくても、子供同士のふれあえる場がほしいです。
- ・子供の予防接種の接種料が高額な気がするので、その部分を無料化していただけるとありがたいです。出来るだけ子供にかかる費用を抑えられるとたすかります。
- ・祝日夜間の医療制度をもう少し良くしてほしい。小さい子は突然なることがあるのでとても心配。
- ・子供が半年過ぎるまで他県に住んでいましたが、その自治体では子供一人ずつカルテを作ってくれ、担当の保健師さんがずっと見てくれていました。産まれたときから担当の方が同じだったので、相談もしやすく電話するとすぐにかけてくれたりしてとても助けられました。鈴鹿は市が広いので、地区ごとにお母さん同士が集まる機会があったりすると、他県から来ても孤独にならずにすむのかな、、、と思いました。ママ友まではいかなくても、近所に同じくらいの子供を育てている人がいると思うと心強い。

(公園)

- ・きれいで安全な公園を増やしほしい。子供の遠視についてのお話を1歳半検診でしてほしい。（子供に遠視があり、どういうサインがあるのかなど） → 資料配布でもいいが、3歳半検診まで発見が遅れる。
- ・近くに公園がない。家がたくさん建って子供が増えているのにないので困っている。
- ・子供がのびのびと遊ぶことが出来る公園をもっと増やしてほしい。

(相談)

- ・仕事している親でも、休日など育児に関して相談できる施設があるとありがたい。
- ・私自身が無口なほうなので、子供と接するときに黙っていることが多く、子供の発育に影響しないか心配です。
- ・一時保育に預けたくても高いし、初日は時間も短くて困る。育児への悩みは周りが面倒みて助かるが、子供たちが私になつかなくなり、私自身が育児するのが嫌になる。ご飯もたくさん食べているのに体重が増えない。産まれた時からガリガリでちゃんと食べても「食べさせているの？」といわれるのがしんどい、、、。
- ・引越してきて、家族や友人など頼れる人がおらず、夫は仕事上、1週間以上休めません。相談は電話で家族や友人に出来るのですが、協力してくれる支援を探しています。
- ・転勤で地元を離れているため、夫婦二人での育児で心細い。
- ・日々の生活の中で同じ子育てをする相談相手や気軽に相談できる人がいないので不安。

(その他)

- ・フルタイムで働く母親が障害を持つ子供を育てるには、まだまだ制度が足りないと思います。デイサービスは増えていますが、朝の登校や長期休みの朝など困ります。お金を払えばファミリーサポートもありますが、高いデイサービス上限を払っているプラスのファミリーサポートは無理です。お金が必要で働いているのに、働いていることで保育料もデイサービス料も高くなり困ります。これからもっとサービスが良くなることを願います。
- ・1、2時間 子供を預かってくれる施設が近くにあればいいと思います。
- ・以前にテレビで見たことがあるのですが、会社の中で託児所という形で出来る子育て支援はすごくいいなと思いました。
- ・子供に障害があり、近いうちに手術が必要ですが、病院が愛知にあるため、手術費用を全額負担しないといけません。愛知に住んでいる子供は費用がかからないと知り、鈴鹿も同じような制度にしてほしいと思います。
- ・子供のご飯に悩むことが多いため、保育園で給食サービスがあったら嬉しいです。アレルギー食や離乳食の給食を食べられたら、とても参考になります。
- ・亀山市がしているように、中学生まで医療費が無料になる制度を鈴鹿市も検討してほしいです。
- ・子育てしながらでも、働きやすい職場がもっとあれば助かります。
- ・兄弟の学校、幼稚園でのイベント時、私自身が病院にかかる時、子供を無料で預かってもらえるサービス。
- ・高度な教育を受けれる学童が鈴鹿市内にほしい。
- ・親が近くに住んでいない単一世帯のお母さんが、気軽に頼める無料の子育て補助制度（少しの子供の面倒や病院へ連れて行ってくれるなど）があればいいと思う。
- ・せめて未就学児の子供を持つ家庭では、その両親とも残業が減らせるようにするとかそういった役職（不利にならない）につくとか、後もフォローになるような制度があれば嬉しいです。
- ・幼稚園の無償化
- ・産後の支援がほしい（家事を手伝ってくれるなど）主人は多忙、実家は遠い、、、近くに気軽に助けてもらえる人がなくて1人目出産後ノイローゼでした。気軽に助けてもらえる安価なサービスがもっとあればいいと思う。
- ・日中は主に私一人で子育てをしています。突発的な事が起きた場合、すぐに子供を預かってくれるところが近くにあれば、、、と思います。
- ・子供を育てながら働ける場所など、ホームページに掲載されていたらいいと思います。職安に小さい子供を連れていけない。
- ・第一子からもっと行政の補助があればいいと思う。介護保険など高齢者を手厚くする前に、未来を担う子供達に税金を使うべき。
- ・母親の心に余裕がないと育児、家事、仕事の両立は不可能だと思う。母親が仕事を行う時代となっている今、もっと母親へのサービス事業をどのような形でもいいので、作ってほしい。

- ・気軽に子供を少し預けられるサービスがあれば、ありがたいです。
- ・亀山市には待機児童館があると知りました。鈴鹿市にもこのような施設があればと思います。
- ・(小学校の)PTAの工作中(3時間くらい)に習い事に連れて行き、下の子2人を家で留守番させるという状況をなんとかしなくては行けなくて、すごくお金がかかった。(PTAはタダ働きなのに、お金をすごく使った)お産の時、妊婦さんをいつでもタクシーみたいなのが夜中でも利用できると助かる。タクシーは夜中台数が少なく絶対に来る保証はないと言われた。産後2週間、上の子の世話、習い事、保育園などの送迎、家事とすごくお金がかかり身心金ともに大変だった。
- ・鈴鹿市の小学校以降の教育への不安があります。他県から仕事でこちらへ越してきましたが、高校のレベルなど低いと伺い、鈴鹿での進学は考えたくないと思いました。
- ・車の運転が出来ないので、バスなどの路線や本数を増やしてほしいです。子供の人数がたくさんいるので、公共交通を利用するときや子供医療の補助を充実させていただけるととても助かります。
- ・三重郡朝日町が行っている、幼保一体型の園が出来ればいいと思います。現状、4月入園以外の場合は、年の途中だとなかなか保育園に入れないと聞いているので、、朝日町の幼保一体型はいつでも入園可能だそうです。
- ・一番下の子が小学生になったら、パートなどをしたいと考えているが、夏休みなどの長期休暇に対応できないので、働くのをためらってしまう。できれば学童などに頼らず家庭で見たいので、そういう仕事があればいいと思う。また内職など、家で出来る仕事ならなおよいと思うので、そういう仕事を紹介してくれるサービス、会社との仲介をしてくれるとうれしい。自分でネット等を使用すると、変な勧誘や個人情報の漏れなどがありそうで嫌だ。
- ・具体的ではないのですが、働く母親に優しい街になってほしいです。雇う側の協力をもっと訴えてほしいです。
- ・子供の無料の範囲がもっと広がったらうれしい。(3歳未満は無料が多い)
- ・育児休暇をもう少し取りやすい制度。2人目が出来た時に育児休暇中保育園を利用できず、再度保育園利用時には定員オーバー。何とかしてほしいです。
- ・子供の夏休みなど、長期休暇のことを考えると、仕事を探しづらい。そういう時だけの学童など、子供が過ごす場の充実、または職場の協力。
- ・子供の体調が悪い時など、仕事が休みづらい事、兄弟で続けて風邪になってしまった時など連続で休むことになってしまうので、もう少し休みやすいように制度とかあったらいいと思う。会社に迷惑をかけることはわかっていますが、ずる休みではないので、どうにかならないかな?働きやすい環境ではないと多々思う。
- ・こういう意見を発信する機会が身近にあったらよいと思う。(その後、どう改善したか、、などの報告会も含めて)市役所で手続き中に子供を見られる場所がほしい。正直市役所は子連れにとって行きづらい。児童虐待についてのポスターは誰のため? 防止のためなら、子育て中の親に向けた言葉がよいと思う。今のポスターは親を責めているように感じる。(悩む前に電話してとか、あなたの声は届くよ、、とか)受診代を窓口で支払わなくてもよい制度に期待します。道路での歩道確保を希望。歩道がない道路では安心して散歩に行けない。
- ・子供の夏休みなど、長期休暇のことを考えると、仕事を探しづらい。そういう時だけの学童など、子供が過ごす場の充実、または職場の協力。
- ・もうじき職場に戻ります。戻るように気持ちが傾いたころ、保育園に電話をしたら、全ての保育園に断られました。これだけ保育園に子供が預けることが大変なのか痛感しました。0歳児の途中ということで、入るには条件が厳しかったのだと思います。(めげずに後日電話したら、偶然にも入園OKの返事を頂けたのですが、、)本当に大変でした。願書は10月中に提出で来年度の予定が決まるなんて思ってもいませんでした。そして、私も復帰をもっと遅くに考えていたので、そのような知識も知っておく必要がある。
- ・もっと一時保育を気軽に使えるようになってほしい。どこで聞いてもいっぱいでありあまりいい回答が返ってこない。
- ・自分の会社にも託児所など作ってくれたらいいなあとか子供がいながらも働きやすい職場があればいいなあ、、と会社に提案しています。

- ・乳児の時の支援（赤ちゃん訪問など）がもっと充実しているとうれしい。初めての育児で不安や心配事がいっぱいあったので。
- ・病児保育の増加 ・ スーパーや病院に託児 ・ はぐはぐで調理室以外での飲食 子供図書館に行ったら、子供図書館なのに静かにしろと職員に怒られた（誰もいないのに）1歳児に静かにしろと言っても無理。 そのために子供図書館に来ているのに、理解のない職員は子供図書館からはずしてほしい。
- ・学童保育も、土日祝対応して下さったり、施設などでも託児を設けて下さいますとありがたいです。また保育料も安価であると助かります。
- ・保育園で病気になった時、病院に連れて行ってもらえるサービス。（すぐに病院に行けないし、小児科は混雑して見てもらえない病院もあるため）
- ・年度の途中で仕事を始める時、子供を預かってもらえる保育園を探すことがこんなに大変なことだとは知らなかった。もう少し「中途入所」がしやすくなればいいのに、、、と思う。一時保育を利用して、希望の園に預かってもらえなかったり、希望の日に利用出来なかったりしてなかなか仕事を出来なかったりということも。結局現在は第二子と第三子が別々の保育園に通っている。できれば同じ保育園に通わせたいが第三子が途中入所ということで、空いている保育園から選ぶしかなかった。
- ・子育て＝お金がかかる イメージが強い。 第三子願望もあるが、お金のこと（貯金）を考えると立ち止まってしまう。
- ・お金が必要だけど、朝か夜（9～20時）まで働いていると、息子といる時間が少ないなと感じる。親にも迷惑をかけてしまっている。
- ・公立幼稚園の延長預かり、年少からの受け入れ。公立保育園の延長保育が私立同様20時位までであるとよい。充実した保育や教育をとると、私立しか選択肢がないのはちょっときびしい。
- ・下の子が生まれた時に、上の子を一時保育に預けたのですが、下の子が1歳になるまでのばしてもらいたいです。
- ・子供3人以上の家庭への支援をもっと増やしてほしい。



2. 平成26年度行政評価に関する調査の結果

平成27年度から5ヶ年計画でスタートした鈴鹿市子ども・子育て支援事業を基本にして、各課で実施された事務事業について平成26年度の事業評価結果が提示されたので、次世代育成に関係するところの庁内評価結果（単位施策評価、事務事業評価、事業実施状況報告書）を基に聴き取り調査を行い市民目線からの評価を行った。（平成26年度の事務事業は次世代育成支援行動計画に基づいた評価となっている）

番号 施策番号	事業名 (所管課)	評価の結果
2 1 2-1/1-3	一時預かり事業 (児童保育課)	この事業は、乳幼児を在宅で保育している保護者が疾病等で保育が難しくなった時への支援策になっており、特に公立保育所の運営事業に位置付けされている。しかしながら、公立では平成26年度まで2ヶ所しか対応されていなく、計画に対して未達になっている。私立でも8ヶ所だけで広がりが見られない。平成27年3月制定の新しい計画では、15ヶ所で運営を行っているとの記述になっており現状と整合性が取れないところがあり、この事業そのものの全面見直しが必要と思われる。
3 2 2-2/1-1	通常保育事業 (児童保育課)	事務事業評価シートによると、公立保育所での障害児入所数はH24年：71人、H25年：112人、H26年：131人と大幅に増加したとのこと。私立保育所での状況は把握されていないとのことであるが、公立保育所の状況を見ると異常とも思えるので私立保育所と合わせて一度要因解析をされることが望まれる。 私立保育所の運営補助事業費を見ると、H26年度：31.0億円に対して、H27年度予算は35.8億円と4.8億円も増額されている。（保育所への入所乳幼児数にはほとんど変動が見られない）にも関わらず事業評価シートでは特記事項「なし」と記載され何も触れられていない。コスト面にも眼を向けられることが望まれる。 また、次世代育成行動計画では、幼保一元化を含めた整備計画を長年にわたり検討されているようであるが、ようやく公立保育所施設整備方針としてまとめたものの、具体性に欠けている。
3 3 2-2/1-2	延長保育事業 (児童保育課)	私立保育所では保護者の要望により全ての保育所で延長保育を行っていて、30分延長の対応をしているところが過半数の21ヶ所で、他は60分延長6ヶ所、120分延長4ヶ所とのこと。延長時間を延ばしてほしいとの要望は少なく特に支障は出ていない。 事務事業評価シートによると、H26年度の決算額1.53億円に対し、H27年度の予算は0.34億円と大幅に減額されているが、特記事項欄には特記事項「なし」と記載されている。H27年度から国の制度が変わるので予算が見通せないとのことであるが、それなりの説明文の記述が望まれる。

3 4 2-2/1-3	低年齢児保育推進事業 (児童保育課)	この事業は、保育所で低年齢児保育を行って補助金の申請があれば補助金を交付しているとのことで、現状では31保育所中27ヶ所から申請があつて交付し、4ヶ所からは申請がなく交付されていないとのこと。個々の保育所においては課題もあるかも知れないが、この推進事業での課題は特に認められない
1 3 4 4-1/2-5	新生児母性訪問指導 (健康づくり課)	この事業では、新生児の相談や産婦の体調等で不安を持っている人等には助産師会の協力を得て助産師が家庭訪問によりフォローされている。また、4か月までの乳児家庭の全戸を訪問する乳児家庭全戸訪問事業を主任児童委員等の訪問員の協力を得て実施している。転居や不在等で約7%の乳児家庭が未実施になっているが、健診等で状況を把握している。他に言語相談、発達相談等育児相談を行って必要に応じて対応方法や専門機関を紹介したりしてきめ細かに対応されている。 この事業に係る経費は、職員の人件費も含めて約4,100万円であるが、国県からは274万円(約7%)しか支給されていない。もっと多くの補助金が支給されるよう努力すべきと思われる。
1 3 5 4-1/2-6	乳児一般健康診査 (健康づくり課)	この事業では、生後4か月と10か月の乳児の健康診査が対象になっていて、市内を中心に県内の医療機関で受診することになっている。受診状況を見ると、4か月児ではほとんどの児が受診しているが、10か月児は保護者が忘れていたり、転出等で約8%の児が未受診状態になっている。未受診者には外国籍の児が多い傾向にある。担当課では、受診状況を確認して未受診者にはその都度フォローされている。
1 3 6 4-1/2-7 1 3 7 4-1/2-8	1歳6か月児健康診査 (健康づくり課) 3歳児健康診査 (健康づくり課)	この2つの事業は保健センターにおいて集団健診方式により行っている。保護者の転勤等により鈴鹿市へ転入してきた対象者についてはシステム上で担当課へ情報が入るようになっているとのこと。健診当日は、毎回80人前後の人が受診することになっているが、何組かに分けて効率よく行われている。対象者の受診実績を見ると、1歳6か月児では4.4%、3歳児では5.3%の幼児が未受診になっていて、その内1/4~1/3は外国籍の児たちである。未受診者にはその都度連絡をとりフォローされている。 事業評価シートによると、医療機関による妊婦健診、乳児健診とこの事業を合わせて2.2億円の経費を掛けている。平成25年度から約5千万円の国県からの補助金がカットされたことにより、全額鈴鹿市の一般財源でまかなっているが、補助金がカットされたことについて何の記述もされていない。コスト面にももっと眼を向けられることが必要である。

3. 意見交換会の結果

平成22年度から平成26年度までの当団体の取り組みを説明し、また、平成27年10月から12月まで行ったアンケート調査の結果及び平成26年度行政評価に関する調査の結果を報告し、意見交換を実施した。

○意見交換

(ワークライフバランスについて)

- ・もっと若いお母さんにワークライフバランスを発信しないといけない。企業側も環境をしっかりと整えていかなくてはならない。中小企業の経営者にもっと意識を持ってもらわなくてはならない。

(行政のコスト意識について)

- ・行政のコスト意識の低さがあらわれた調査結果である。補助金があるのに活用していないなど、職員のコスト意識を高めていかなくてはならない。
- ・国からの補助金がなくなったケースでは、福祉関係の事業は必要だから止められない。難しい問題ではある。

(障害児の保育について)

- ・民間の保育園でも障害児を保育しているのに、その実態を把握していないのは問題である。

(途切れのない教育について)

- ・0歳から18歳までの途切れのない教育ができていない。保育所(園)・幼稚園から小学校、小学校から中学校と情報の連携が取れていなくて、対応が後手後手になっているケースがある。マイナンバーのようなカルテ、データベースが必要である。
- ・特に支援が必要な障害のある子どもや外国籍の子どもたちは、途切れのない教育は重要である。

(保育の質について)

- ・保育の質が重要。最近では、パート職員や臨時、派遣など非正規職員が保育の現場では多くなっている。非正規職員にもしっかりとした教育が受けられる仕組みを作らなければならない。

(就学前教育について)

- ・教育は0歳からはじまるという意識が必要である。教育に力を入れなければ未来の担い手は育たないし、経済も発展していかない。

(鈴鹿市のホームページについて)

- ・子育て支援サイト「きら鈴」の認知度が低いことは問題である。もっと充実したホームページを作成すべきである。お母さんたちの生の声「ツイッター」等を取り入れたり、情報をこまめに更新する等の努力が必要である。行政が出来ないのであれば、民間に運営を委託した方が良いのではないか。

(子ども政策部について)

- ・平成28年度からは鈴鹿市の機構改革によって子ども政策部がスタートする。保育所(園)・幼稚園・小学校・中学校の連携が必要である。

(子育て支援センターについて)

- ・りんりんを日曜日に開館することがなぜ出来ないのか。働く母親が増える中で、また、育メンが叫ばれる中で、日曜日こそ開館するべきだと考える。
- ・りんりんでは、なかなか母親が育っていかない。自分達で声をあげていくとか、必要なサービスを自分たちで行動して作っていくという意識がない。名張市では、行政がその様な仕掛けをした結果、多くのNPOが生まれている。

(PDCA サイクルについて)

- ・行政はPlan=計画を立てて、Do=実行しているが、それらのCheck=評価・Action=改善がまったく出来ていない。また、計画についてもしっかりと掘り下げて市民目線での事業か否か把握していない職員が多い。これらについては、市議会でもしっかりとチェックするべきである。



IV. まとめ

平成27年度から5カ年計画でスタートした「鈴鹿市子ども・子育て支援事業計画」を実効性あるものとするため、市民の視点に立って進捗状況を評価し、改善に向けた内容をまとめることが必要となる。

平成22年度から平成26年度までの5年間の次世代育成支援行動計画の調査に引き続き、この事業の第1段階として、アンケート調査と行政による事務事業評価に対する評価を実施し、また、これらの結果を基に意見交換会を行った。その結果を次のとおりまとめた。

1. アンケート調査

- (1) 今回のアンケート調査では、381名からの回答を得られた。回答者の97%は母親からの回答であり、父親の声が少ない結果となったが、アンケートの自由記述の多さを見ても、子育てに関する切実な声を聴くことができた。
- (2) 社会全体で子育てを応援していこうという「鈴鹿市子ども・子育て支援事業」について、その存在を知っているのは12%で、86%は知らないという結果になった。市民への周知が必要である。
- (3) 働く母親の多くのニーズは、病後児保育であった。鈴鹿市では1カ所しか病後児保育を実施しておらず、もう1カ所、あるいは、保育所（園）に併設した病後児保育の施設が必要と考える。
- (4) 専業主婦である母親のニーズは、一時預かり保育であった。専業主婦の多くには、他県からの転入者も多く、身近に子育てを手伝ってくれる親族や友人がおらず、一人で子育てをしている。そのような母親は、1～2時間でいいから一人になれる時間がほしいニーズは高い。
- (5) 「ワークライフバランス」を実現させるためには、鈴鹿市がリーダーシップをとり、商工会議所などと連携・協働することで、市内の中小企業事業の経営者に積極的に普及・啓発する必要がある。

2. 平成26年度行政評価に関する調査

- (1) 平成26年度の事務事業評価に関する調査を実施した結果、事業に関する担当課との事業評価に若干の相違はみられたが、各担当課ともに次世代育成支援に関する事業は、しっかりと取り組まれている。
- (2) 事務事業評価シートの予算額と決算額・目標値と実績値に相違がみられるものがあったり、国・県からの補助金について不明確なものがあったりと、誤謬が多々みられた。評価のまとめの際のチェック体制の見直しが必要である。
- (3) コスト意識の低さが事務事業評価シート及びヒアリングからも露呈された結果になった。市民の税金を預かって使用している立場の職員としての意識改革が必要である。

3. 意見交換会

- (1) 参加者は少なかったが、内容の濃い話し合いとなった。市民と議会の連携の重要性についても議論できたことは、今後の子ども・子育て支援事業に有効であった。
- (2) 0歳から18歳まで途切れのない子育て支援が重要であると再認識した。来年度からの子ども政策部との連携も重要である。
- (3) 行政のコスト感覚の低さについて、市民として声を上げていかなければいけないと認識した。国の補助金のあり方についても考える必要がある。



～地域で支える鈴鹿の子育て～

V. 施策の方向性

今回の調査結果と意見交換会から、私たちNPO法人21世紀の子育てを考える会。鈴鹿では、次世代育成支援・子育て支援について、5つの提言をし、施策についてその方向性を示すこととした。

1. 途切れのない支援の確立

0歳から18歳まで、一人の子どもの成長を把握する途切れのない支援の確立が必要と考える。平成28年度より子ども政策部が出来ることによって、子ども一人ひとりの成長を把握する仕組みが出来ることに期待する。

2. 支援を必要とする家庭への支援のさらなる充実

「支援を必要とする家庭」への支援のさらなる充実が急務と思われる。

子どもの貧困が社会問題になる中、平成27年4月からは生活困窮者自立支援制度もスタートしている。鈴鹿市においても支援を必要とする家庭への支援は急務であり、子ども家庭支援課が所管課となって対応しているが、今後のさらなる支援の充実のために、庁内で連携をとって情報共有し課題解決に向かっていくことが重要である。また、課題の分析をし、行政でしかできない支援・市民にできる支援と棲み分けをしながら、情報公開できるものは公開し、行政と市民の協働で支援の充実を図ることが重要である。

3. 専業主婦への支援のさらなる充実

「専業主婦」への支援のさらなる充実が必要と思われる。

働く女性が増える中、専業主婦の子育てはますます孤立する傾向がみられる。一時保育も気軽に利用できる環境ではなく、特に県外からの転入者にとっての子育て不安は大きい。子育て支援センターや保健センターでは、定期的に親子教室を開催しているが、親子が一緒に手遊びをしたりといった親子教室が多い。母親が子どもと離れてゆっくりと子育てについて話し合える場や勉強できる場の提供が必要である。

4. 病後児保育のさらなる充実

「病後児保育」のさらなる充実が必要と思われる。

仕事と子育てを両立しやすい鈴鹿市にするためには、病児・病後児保育の整備は重要である。しかし、現状では、鈴鹿市内には病児・病後児保育が白子地区に1カ所しかなく、遠方の保護者からは不便との声がある。保育所併設型の病後児保育を整備してほしいといった声もある。当事者の声を反映し、全国での先進事例などを参考にしながら、鈴鹿市における病後児保育のさらなる充実を図ることが大切である。

5. 次世代育成支援・ワークライフバランスに関する啓発活動

次世代育成支援・ワークライフバランスに関する広報活動や講演・研修など、啓発活動を提案します。次世代育成支援・ワークライフバランスを社会全体の取り組みとするためには、さまざまな主体が連携し協働しなければ実現は不可能である。特に、働きながら子育てをする環境を整えるためには、企業への啓発・広報活動は重要である。

VII. 資料

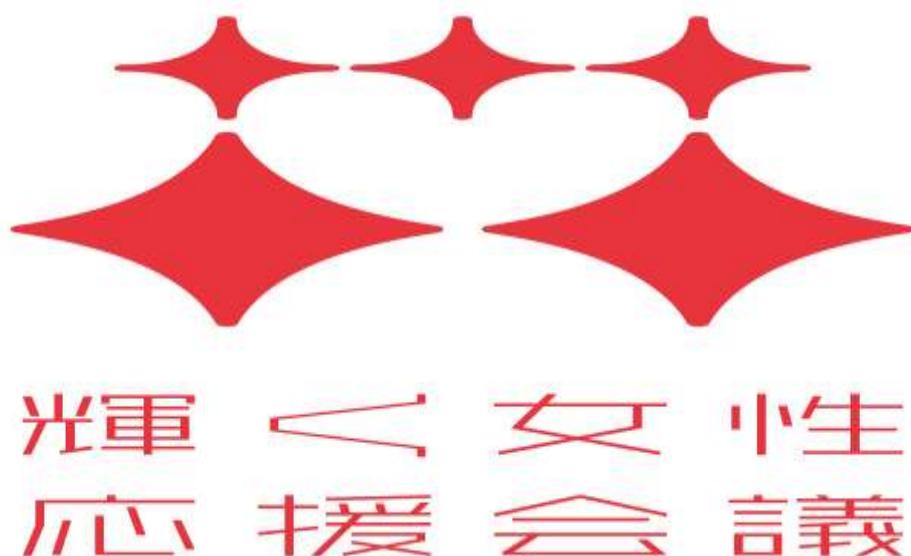
◆ワークライフバランス

* 「仕事と生活の調和（定義）」とは、

「国民一人ひとりがやりがいや充実感を感じながら働き、仕事上の責任を果たすとともに、家庭や地域生活などにおいても、子育て期、中高年期といった人生の各段階に応じて多様な生き方が選択・実現できる社会」（内閣府 HP より）

The image shows a screenshot of a Japanese website titled "ワーク ライフ バランス 仕事と生活の調和の実現に向けて" (Work-Life Balance: Towards the realization of work-life harmony). The main banner features the slogan "ひとつ「働き方」を変えてみよう!" (Let's try changing one way of working!) and the "カエル! ジャパン Change! JPN" logo, which includes a green frog character. The website has a navigation menu on the left with categories like "仕事と生活の調和とは" (What is work-life harmony?), "政府の取組" (Government initiatives), "地域の取組" (Local initiatives), "企業の取組" (Corporate initiatives), "民間団体の取組" (Civil society initiatives), and "海外の取組" (Overseas initiatives). On the right, there are links for "カエル! ジャパンについて" (About Change! JPN), "シンボルマークのダウンロード" (Download the symbol mark), "「カエル! ジャパン」キャンペーンに参加しよう!" (Join the Change! JPN campaign!), and "「カエル! ジャパン通信」" (Change! JPN newsletter). A footer section includes "トピックス" (Topics) and a search icon.

◆輝く女性応援会議





4月から、生活困窮者への支援制度が始まります

ひとりで抱えこまずに
まずはご相談ください

生活に困っている

仕事が見つからない

将来が不安

病気で働けない

社会に出るのが怖い

家族のことで悩んでいる

家賃を払えない

住む所がない

働きたくても働けない、住む所がない、など、まずはお困り事をお聞かせください。地域の相談窓口が一緒に考え、解決へのお手伝いをします。ご家族などまわりの方からの相談でも受付いたします。

相談無料

ご相談はお住まいの市町村や自立相談支援事業を実施する機関の窓口にご連絡ください。

厚生労働省
Ministry of Health, Labour and Welfare